

令和6年度 第2回 湖西圏地域医療構想調整会議 議事概要

【会議の概要】

日 時:令和7年3月4日(火)13:30~14:30

場 所:滋賀県高島保健所2階大会議室

出席委員:松本委員、大山委員、上村委員、武田委員、森田委員、岸本委員、岡田委員、
野島委員(代理:土井氏)、森委員、北村委員、山本委員、時田委員

計13名 ※オブザーバー:2名(マキノ病院 西村病院長、前川事務長)

欠席委員:本多委員

傍 聴 者:3名

事 務 局:高島保健所6名、医療政策課4名

開 会:13:30

あいさつ:時田 滋賀県高島保健所長

議長就任:松本委員(高島市医師会長)

議 事:下の【議事の経過概要】のとおり

閉 会:14時30分

【議事の経過概要】

【議題 1】「新たな地域医療構想に関する取りまとめ」について

(事務局:医療政策課)資料1により説明

国における新たな地域医療構想に関する取りまとめの概要、今後の進め方等について説明。

(委員)

説明にあった「包括期」とは、高齢期・高齢者ということか。高齢者とは何歳からか。

(事務局)

現状、回復期(病床)ということでは、高齢者救急で入院された方は、そのまま(急性期病床で)診ていただいているという状況もある。厚労省でもその機能の区分が難しいと考えており、今後、高齢者救急がもっと増えてくるというようなことを考えると、新たな地域医療構想では、回復期ではなく「包括期」というような区分を設けて対応する、という考えのようだ。

(委員)

高齢者とは何歳からか。

(委員)

若い人と高齢者では医療を変えるという意味合いがあるのか。地域包括ケア病床とどう違うのか。

(事務局)

現時点で、詳しい情報を持ち合わせていないので、厚労省から情報が入り次第、ご提供する。

(委員)

国は、「包括」という言葉が好きなようで、思うように回復(期)しないから、包括するというような感じだろうか。これから順次アナウンスがされるのだろう。

〔議題 2〕「へき地医療拠点病院の指定について」

(事務局:医療政策課、マキノ病院)資料2により説明

事務局から、へき地医療拠点病院の指定に関する制度の概要説明。
その後、マキノ病院から、へき地医療活動の現状・指定を受けたい理由等について説明。

(委員)

「へき地」の定義はあるのか。高島市はそうなのか。

(事務局)

「無医地区」等ということとなるが、無医地区の定義は、半径4キロメートル円の中に住民が50人以上住んでいて、かつ医療機関が近くにない、診療を受けるために1時間超かかるというような定義がある。高島市全域が該当するということではない。

(委員)

先ほどの説明の「在原地区」はどうか。

(事務局)

在原地区は人口が50名を下回っているので、準無医地区に該当する。

(委員)

「準」というのは、基準を少し上回って状況がよいような印象があるが、この場合は、無医地区の基準に人口が及ばないということで、「準」となっているということだね。

(議長)

それでは、意見も出尽くしたようなので、当調整会議として、「マキノ病院のへき地医療拠点病院の指定については賛成」ということでよろしいか。

(各委員)

「異議なし」で了承。

〔議題 3〕「滋賀県外来医療計画(紹介受診重点医療機関)」について
(事務局:高島保健所)資料3により説明

事務局から、紹介受診重点医療機関の制度概要と、紹介受診重点医療機関である高島市民病院の現状、今後の考え方、進め方等について説明。

(委員)

基準を満たさない場合、指定を受けられなくなるのか。

(事務局)

一定の基準はあるが、それを満たさなくても、この調整会議の協議で、紹介受診重点医療機関になっていただくのが適切だとは判断いただければ、受けていただける。

(委員)

この調整会議で協議して、地域の特性に応じ、判断すればよいということ。

〔議題 4〕「かかりつけ医機能報告制度」について
(事務局:医療政策課)資料4により説明

かかりつけ医機能報告制度の概要と、現在の国の動き、今後の国のスケジュール等について説明。

(委員)

この制度の目的は何か。地域でかかりつけ医をどれだけもっているかとか、診療所の現状調査なのか。

(事務局)

地域の医師不足の問題、在宅医療や介護の話と切り離せないというところで、地域の医療提供体制の状況をできるだけ見える化して協議の場にご提示していくことが目的。

(委員)

国で具体的に決まらなないと、県としても答えられないだろう。

(委員)

現在のG-MISでの各種報告については、非常に煩雑で手間が増える。項目なども減らす方向がよいと思う。

〔議 題 外〕「意見・質問等」

(議長)

先ほどの議題についてであるが、手間暇かけてでも一回やれば、次年度以降は楽になるというのなら協力もするが、毎年パソコンの前で長時間かけてやっていると聞いている。できるだけスマートなデジタル化を期待している。

以上